

八百幸商店に戻ってから2年後の1971年、私は妻の光世とお見合いをしました。県立浦和高校での恩師、高橋富士男先生の仲立ちによります。

私は高橋先生から授業で直接教えていただいたことではないのですが、1年生の時からお宅にうかがって英語を教わっていました。田舎育ちの真面目で素直な生徒だと、私をかかわりがつてくれました。卒業後、先生とは年賀状のやりとりぐらいでしたが、母は私の恩師として礼を尽くすとともに「いい人がいたらお世話してくれませんか」とお願いしていたのだと思います。

妻のすぐ上の兄も私の1学年下の浦高生で、学年トップの成績の秀才です。高橋先生は、クラス担任として、英語の教師として、義兄のひたむきな向学心に感心していたようです。やはり田舎の日高町(現日高市)から1時間以上もかけて電

## ~HISTORY~ 暮らしを変えた立役者

車で通学する真面目で優秀な義兄に目を掛けていました。義兄は卒業後も先生のお宅に時々伺っていたようですし、その折に妹と一緒に連れて行ったことがあったそうです。

お見合いは先生の家で行

### しっかり者の妻に感謝

#### 高校恩師が仲立ち、結婚

世の中は狭いといいますが、私の場合は、トラックの運転を社員にまかせ、私は弟の車で熊谷の市場へ行きます。仕入

川高等女学校の同窓生でした。さらに2人とも優等生でしたから、2年の学年差はあってもお互いに名前を知っていたのです。私の母も不思議な縁を感じたと思います。

結婚話はトントン拍子で進みました。結納から結婚までの期間は10カ月で、デートとはいっても、い



妻は私も八百幸も支えてくれた

でしたが、数日の新婚旅行には行けました。弟の車を借りての、伊豆一周です。

結婚当初、私たち夫婦の新居は小川町の本店の2階でした。それまでは、母と私たち兄弟が住んでいました。母は「ここはあなたたち夫婦が守りなさい」と言って、別の所に家を建てて移りました。

を食べて、午後3時ごろには妻の自宅に戻ります。私は仕事で疲れていました。アで眠り込んでしまい、夕方

私に妻を日高町の家へ迎えに行きます。仕入れに行つた時そのままに、長靴に手拭いという格好でした。私が懸命に働く姿を好ましく思っていたようです。

結婚式は72年の3月10日でした。実質上の店舗展開には大変な苦労をかけてしまったと思います。辛抱強く

日経MJ 2019年5月17日掲載